

# 令和 7 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	30	学校名	県立 I T 未来高等学校				課程	定時制課程		学校長名	辻 武伺					
教頭名	倉橋 琢也									事務(室)長名	道口 満					
教職員数	教諭	21	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	3	計	37
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	I T 科		58	14	48	15	39	15			145	44		189		
	科															
科																

## 2 目指す学校像

<p>(1) 情報活用能力や社会の諸問題を分析・解決できる能力を培うことをとおして、デジタル社会を支える I T 人財を育成する学校</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの多様な価値観や学習形態へのニーズに対応し、興味・関心に応じた進路を実現する学校</p> <p>(3) 社会革新するアイデアを創り出し、次世代のリーダーとして成長できる学校</p>
---

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>・豊かな人間性と起業家精神を兼ね備えた、次世代を担う I T 人財を育成する</p>	
<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく物事を判断し、相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を伝えられる人</li> <li>・高い専門性を有し、ねばり強く価値あることの実現に向けて、チャレンジする人</li> <li>・社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて地域社会へ積極的に参画し、貢献する人</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科教育の充実による I T 人財として必要な知識と技術の習得</li> <li>・キャリア教育の充実による I T 人財として生きていく力の伸長</li> <li>・外部機関との連携による最新技術等の知識の習得</li> <li>・身につけた I T スキルを活かした地域貢献の推進</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス (法令遵守・社会規範・倫理観) を尊重しようとする生徒</li> <li>・情報に関する学びに興味・関心があり、継続して課題に取り組もうとする生徒</li> <li>・互いのよさを認め合い、協働してよりよい社会の実現に努めようとする生徒</li> </ul>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T を活用した効率的な授業の実施及び指導と評価の一体化を重視した授業改善が定着し、全体的に生徒は授業に満足して取り組んでいる。 ※授業満足度調査 [4段階 (4 (最高) ~ 1 (最低))] <ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能の向上 : 3.4</li> <li>思考力・判断力・表現力等の向上 : 3.4</li> </ul> </li> <li>・多様な進路希望がある一方で、学習に進んで取り組めていない生徒が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力を高めるために、協働的・探究的要素を取り入れた授業の実現に向けて、継続的授業改善が必要である。</li> <li>・生徒が主体的に学習に取り組むよう、I C T の活用はもとより、学習習慣の確立、生徒の実態を踏まえた授業展開を図る必要がある。</li> </ul>
進路指導 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路について大学希望者は約 33%、短大・専門学校希望者は約 29%、就職希望者は約 20%である一方、希望進路未定の生徒が約 18%いる。</li> <li>・企業の方を講師に招き I T に関する実践的な講座を行う I T セミナーを実施している。また希望者を対象に資格取得支援講座や情報デザイン特講を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路意識を高めるべく、進路行事等を拡充させる必要がある。</li> <li>・上級学校や企業への広報活動を考える必要がある。</li> <li>・学校教育と職業生活の接続を強化する。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大部分の生徒は挨拶や身だしなみがきちんとでき、落ち着いた学校生活を送っている。</li> <li>・毎月生活調査といじめ防止対策会議を実施し、生徒の状況把</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員の共通理解のもと、更なる規範意識の向上を図る必要がある。</li> <li>・生徒一人ひとりの心の変化に気づき適切な対応</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	<p>握を図っている。いじめ疑いの事案が発生した際は、全教職員の共通理解のもと迅速な対応にあたっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする生徒について、個別の対応・配慮が求められる場面がある。</li> <li>・心因的な不調を抱え、学校生活に支障をきたしている生徒が見受けられる。</li> </ul>	<p>ができるよう、組織的な見守り体制をつくる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する生徒の対応にあたる必要がある。</li> <li>・カウンセリング体制を充実させ、生徒の心のケアを図る指導と環境を整える必要がある。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数が少ないながらも、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事いずれも、概ねの生徒は積極的に参加し活動している。</li> <li>・部活動は、各種コンテストや大会、地域活動へ多く参加し、入賞を果たすなど成果を収めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体となる特別活動の運営を進めていく。特別活動が、生徒自らのキャリア形成に結びつけることができるよう継続指導する必要がある。</li> </ul>
学校健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康状態や配慮すべきことについて職員間で共有し、安心安全な学校生活を送れる配慮をすることは概ねできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の健康状況を常に把握し、全職員が共通理解を図り対応することが必要である。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤に対する意識は以前より高まっている反面、少ないスタッフで業務を遂行してきたため時期によっては一部に負荷がかかる傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多岐にわたる業務の精選、分掌間の業務分担と連携、校務支援システム等の有効な活用を図る必要がある</li> </ul>

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自ら学ぶ意欲を培い、基礎・基本の定着を図るとともに、探究的プロジェクト学習に取り組むことで、IT 人財として必要な資質・能力を育成するとともに、生徒それぞれの進路実現を図る。</li> <li>(2) 一人一人の生徒理解に努め、生徒と生徒、教師と生徒との望ましい人間関係を構築する。</li> <li>(3) 保護者との信頼関係を深め、学校と家庭との協力体制を構築する。</li> <li>(4) 特別活動等を充実させ、生徒主体の学校づくりを推進する。</li> <li>(5) 年次を超えて連携し、問題行動の未然防止を図るとともに、問題発生時の危機対応に備える。</li> <li>(6) 笠間市や地域住民との連携を強化し、地域社会に積極的に貢献するとともに、「地域から愛され信頼される学校づくり」を推進する。</li> </ol>
--

(7) 教育課程の構成や教科用図書、クラウド教材等についての見極めを行う。

(8) 2030年以降を見据え、持続可能な社会の創り手を育成する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
一人一人に応じた学習指導の充実、授業改善	①一人一人の学習状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、普段から ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組み、IT 人財として必要な知識と技能を修得させる。 ②IT 技術者に求められる論理的思考力とプレゼンテーション能力を育成する。 ③先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、学校全体で学習習慣の定着を図る。 ④生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値 3.5 以上を目指す。 ⑤「生徒 1 人 1 人のタブレットを活用し、学びの進め方を工夫している」教員の割合を 70%以上とする。
探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育の充実	⑥「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に取り組み、キャリアパスポートで振り返ることを基本とし、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。 ⑦外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、それぞれの進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。
豊かな心の育成	⑧「公共」及び「倫理」並びに特別活動を軸として、学校の教育活動全体で道徳教育に取り組むとともに、基本的な生活習慣を確立し、公共心・公德心を育成する。 ⑨特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。 ⑩いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図り、安心・安全な学校生活を確立する。

別紙様式 1 (高)

教職員の超過勤務時間の縮減	⑪業務の精選と分担の見直しを不断に行うことにより、残業月 45 時間以内、年 360 時間以内を達成する。
学校広報の充実	⑫県広報等を通して、学校行事等に関する事前の情報提供、事後の記事提供を行うとともに、学校ホームページ、SNS を充実させ、保護者や地域の方々に本校の教育活動を積極的に発信する。
教育環境の改善	⑬学校における働き方改革の加速と、環境整備を推進する。